

# 臺灣ニ於ケル「フィラリヤ」性乳糜血尿ノ一例

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/38573">http://hdl.handle.net/2297/38573</a>

# ○臺灣ニ於ケル「フィラリヤ」性乳糜血尿ノ一例

(明治三十七年九月臺南醫院醫事集談會ニ於テ)

中 川 幸 庵 (南臺)

「フィラリヤ」ニ因スル乳糜血尿ハ熱帶地方ニ於テ多ク見ル處ノ疾病ニシテ其只一例而モ其患者ハ琉球人ナルヲ以テ臺灣醫學上毫モ貢獻スル處ナキニ似タリ然シ乍ラ該患者カ臺灣ニ於テ發病セシト或ル土人カ此患者ノ放尿スルヲ見テ一種ノ藥物ヲ與ヘタルコアルト及ヒ尿ノ白濁ヲ訴フル處ノ土人ノ二三カ外來診察ニ來タリタルコアルノ三点ニヨリ推察スルニ此疾病ハ臺灣ニ於テモ存在スルコト疑ナシ然レモ未タ臺灣南部ニ於テ之ヲ實驗セシコトノ見聞ニ接セス亦臺灣ニ於ケル此種ノ報告ノ有無ハ余淺學ニシテ知ラサルナリ之レ爰ニ一例ヲモ看ス報告スル所以ナリ。

乳糜血尿症ハ古來ヨリ既知ノ疾病ナレモ其「フィラリヤ」虫ニ起因スルコトノ發見ハ今ヨリ約五十年前ノコトニシテ則チウツヘレル Wucherer 氏カ千八百六十六年八月四日ブラジールノバヒア Bahia ニ於テ乳糜血尿ヲ患フル一患者ノ尿ヲ検査セシ際其尿中ニ細小ナル糸狀虫ノ存在セルコトヲ見出シタルヲ以テ初メトシ其后引續キ二年間ニ於テ同様ノ看察ヲナセシコト二十八回ニ及ベリト云フ、此糸狀虫ハ千八百六十三年デマルケー Demarquay 氏カ陰囊水腫ヲ穿刺シテ得タル乳糜液中ニ存在セシ「フィラリヤ」幼虫ト同一ノモノナリキ、千八百六十八年レウイス Lewis 氏ハカルカッタニ於テ同虫ヲ亦乳糜尿ヨリ發見シ、千八百七十年クレボー Chevank 氏ハ Ceres 沿岸ニ於テコッポールド Cobbold 氏ハナタル港 (亞弗利加ノ東南岸) ニ於テ之ヲ見タリ、レウイス氏ハ千八百七十二年ヨリ千八百七十五年ノ間印度ニ於テ三十人ノ乳糜尿ヲ検査シ尿中ノミナラス血液中ニ於テモ此糸狀虫ヲ証明シ而シテ此虫ノ常居所ハ血液ナリト推定シ之ニ人血系

狀虫 *Filaria sanguinis hominis*. ノ名ヲ附シタリ、マンソン Manson 氏モ亦廈門ニ於テ同シ確定ヲナセリト云フ。

母虫ノ發見ハ千八百七十六年バンクロフト Bancroft 氏カオースタラリヤニ於テ上膊淋沍膿瘍中ニ檢出セルヲ嚙矢トス其長サ約十仙迷ノ毛髮様透明ノ線虫ニシテ雌虫ハ雄虫ヨリモ稍大ナリ其占居スル處ハ象皮病者ノ淋沍腺又ハ乳糜尿患者ノ大淋沍管並ニ淋沍胸管ニシテ時トシテ極稀ニ乳糜尿ノ中ニ於テモ發見スルコトアリト云フ之ヲ發見者ノ名ヲ冠シテバンクロフト氏「ファイラリヤ」*Filaria Bancrofti*ト稱セラル。

「ファイラリヤ」病者ノ尿中或ハ血中ニハ通常只約〇・三密迷ノ幼虫ヲ發見スルノミニシテ此幼虫ノ爾后ノ發育及ヒ成熟狀態ハ長ラク不明ナリシニマンソン氏ノ研究ニヨリ雌蚊ノ中間宿主ヲナスモノタルヲ証明セリ

人血中ニハ此レウイス氏「ファイラリヤ」ノミナラス尙數種ノ寄生スルコトヲマンソン氏ハ報告セリ即チ

(一)、「ファイラリヤ」ノクツルナ」*Filaria nocturna*.

夜間ノミ血中ニ現ハレ晝間ハ認めサルモノニシテ「ファイラリヤ」ト通稱スルモノ

(二)、「ファイラリヤ」ヂウルナ」*F. diurna*.

其形狀「ニ類スレ」日中血中ニ現ハレ夜間消失ス、西亞弗利加ニ存在ス此成虫ハ「ファイラリヤ、ロア」ナルベシト云フ

(三)、「ファイラリヤ」ベルジスタンス」*F. persistans*.

亦西亞弗利加ノ大部ニ播布シ晝夜ニ論ナク血中ニ現出シ其形狀大小共ニ次ノ二者ニ似テ被膜ヲ有セス、成虫ハ未タ發見セラレス

(四)、「デマルクキイ氏」「ファイラリヤ」*F. Demarquanii*.

其形狀ハ一)及ヒ二)類似シテ尾端銳尖ナレモ小ニシテ約二分一ナリ、被膜ナシ、西印度度及ヒ紐幾尼亞ニ見ル、日中夜間共ニ血中ニ現ハル

(五、オツアルド氏「フィラリヤ」F. Ozardi.

南亞米利加、英領アギナ土人ノ血中ニ於テ オツアルド氏發見セルモノニシテ前者ト其大サ畧同シ日夜時ヲ撰マス血中ニ現出シ被膜ナシ

(六、マガルヘーシ氏「フィラリヤ」F. Megallesi.

マガルヘーシ氏カ一小兒屍心臓内ヨリ發見セルモノニシテバンクロフト氏「フィラリヤ」トハ全ク別種ニシテ幼虫ハ不明ナリ

ノ六種アリ然レモ最モ汎ク蔓延播布スルモノハ即チ第一種ニシテ

地理的ニハ印度、支那、日本(西南島)、シヤム、印度支那、埃及、マダカスカル、亞弗利加西岸、北亞米利加南岸、ブラジル、オーストラリヤ及ヒ南洋諸島ニ汎ク存在ス

日本ニ於テハ西南地方殊ニ九州四國ノ沿岸、島嶼ニ多クシテ就中五島、天草ナド尤モ有名ナリ故ニ九州ニ於テハ地方病トシテ之レカ撲滅ニ力ヲ盡シツ、アリ

我國ニ於テ初メテ之ヲ發見シタルハベルツ Boen氏ニシテ千八百七十七年故村田博士カ其「クリニク」ニ於ケル實驗ヲ報告セリ、和辻氏ハ隱岐及ヒ山陰道沿岸ノ住民ニ多數ノ「フィラリヤ」アルヲ云ヒ本多氏ハ天草、鹿兒島ノ「フィラリヤ」地方ヲ巡迴シテ乳糜尿ト象皮病トノ關係ヲ研究シ其血液検査ニヨリ共ニ「フィラリヤ」ニ因スルヲ立証セラレシカ熊野氏ハ鹿兒島縣下ニ於テ象皮病ノ調査及ヒ手術療法成績ヲ報シ而シテ乳糜尿トノ關係ニ付テハ陰性ノ

成績ナリシト云フ谷口氏ハ九州醫會ノ宿題ニ於テ「フィラリヤ」病ヲ詳論セラレタリ其他ニハ二三ノ例症報告アルニ過キス

「フィラリヤ」病ニハ凡テ「フィラリヤ」寄生ニ仍テ起レル淋沬管炎、淋沬腺腫脹、陰囊淋沬水腫、乳糜性腹水、乳糜性下痢、乳糜尿、乳糜血尿又ヒ地方性象皮病等之ニ屬スレモ今爰ニハ其中ノ乳糜血尿ノミニ就テ論セントス

「フィラリヤ」性乳糜血尿ハ發作性ニ白濁混血ノ尿ヲ排泄スルヲ主徵候トス之レ或ハ突然發シ或ハ身体ノ過勞、飲酒等多少ノ誘因トナルヘキモノアリシ后ニ起リ又ハ其症狀増悪ス大概尿ノ變狀ノミニ止マリ患者ハ更ニ苦痛ヲ感セサルモ亦時トシテハ腰痛、排尿困難等ヲ訴フルコアリ、單ニ乳糜尿ノミナレハ長ク經過スルモ余リ營養ハ障害セラレサルモ多クノ血液ヲ混スルキニハ爲メニ高度ノ貧血ヲ起シ少許ノ運動ニ於テモ心悸亢進、頭重、眩暈等ヲ訴フルニ至ル、然レモ患者唯一ノ苦痛ハ其時トシテ存スル排尿困難ニシテ尿ハ膀胱内ニ於テ凝固シテ排泄障害ヲ起スニヨル。

尿ノ反應ハ弱酸性或ハ中性又ハ弱亞兒加里性ニシテ比重ハ一〇〇六一—一〇二〇、量ハ一二〇〇、〇瓦—三〇〇〇、〇瓦ノ間ナリ、尿ノ白濁ハ脂肪ノ含有セラル、ニヨルモノニシテシヨイベ氏ニヨレバ其量〇、六一三、三%故村田、丹波氏ノ分拆成績ニテハ〇、二三—一、二八五%、谷口氏ハ〇、〇五—〇、九七%ナリト云フ、脂肪ノ他ニ尙蛋白質ヲ含ミ故村田、丹波氏ニヨレハ二、二%、シヨイベ氏ハ〇、六一二、六%、谷口氏ハ〇、〇八一、五二%ナリト云フ。

尿ヲ顯微鏡下ニ検査スルニ脂肪球ハ微細ノ小滴トナリ現ハレ血球ハ每常欠クルコナシ、「フィラリヤ」幼虫ハ血混ノ尿ニハ多ク發見セラル、モノナレモ尿中ヨリ之ヲ檢出スルコト難キモノナリトス、尿中ヨリ幼虫ヲ見出サント欲セハ排尿直后ヲ可トス稍々時間ヲ經過スレハ尿ハ凝固シテ検査ニ困難ナリ故ニ排尿后直ニ遠心力沈澱機ヲ用キ得タル沈澱ヲ檢鏡ニ供スベシ或ハ又二〇〇、〇—五〇〇、〇瓦ノ多量ノ尿ヲ濾過シ其濾過紙上ニ殘留セル濃厚液ヲ採取シテ檢

查セハ發見シ易シ、ト云フ、尿中ノ「フィラリヤ」ハ同患者ノ血液ニ比スルニ遙ニ少數ニシテ數回數十枚ノ標本ヲ製シ漸ク見出スルコアリ

「フィラリヤ」性乳糜血尿患者ノ血液中ニハ常ニ多數ノ「フィラリヤ」幼虫ヲ認ムルコヲ得レバ夜間ニアラサレハ發見シ難シ故ニ血液検査ハ夜間ニ於テシ指尖ヨリ採取セル血液ヲハ新鮮ノマ、或ハ永久標本トシテ検査ニ供ス、新鮮標本ニ於テ幼虫ノ運動ヲ認メント思ハ、三―四枚ノ「デッキグラス」上ニ乾燥ヲ防ク爲ニ其邊緣ニ「ワゼリン」ヲ塗布セルモノヲ用ヒ「オブエクトグラス」ハ少シク温メラレタルモノヲ用フレハ幼虫ハ一週間余モ尙生活シ其運動狀態ヲ看察スルコヲ得ルナリ、即チ透明無色ノ蛇行狀運動ヲナシ或ハ活潑ナル挑撥狀ノ運動ヲ營ムヲ目撃スベシ、永久標本ハ「マラリヤ」血液標本ト同様ノ方法ニ於テ造リ空氣中ニ乾燥シ后温熱或ハ「アルコホール」エーテル」ヲ以テ固定シ「メチレン」青「エオジン」ニテ染色シ而シテ「カナダバルサム」ニテ封スレハ可ナリ、子虫ノ形ハ細長ナル小圓虫ニシテ其大サハ

レウイス氏	長サ	〇、三五―〇、三七mm	太サ	〇、〇〇七―〇、〇〇八mm
クレボー氏	長サ	〇、二六五mm	太サ	〇、〇一〇mm
シヨイベ氏	長サ	〇、二一六mm	太サ	〇、〇〇四mm

其他成書ニヨリテハ尙多少ノ差異アルヲ見ル。

谷口氏ノ報告ニヨレハ「フィラリヤ」幼虫ニ二種類アリテ

第一種ハ血乳糜尿或ハ其他ノ「フィラリヤ」病ニ於テ只血中ニノミ存在シ殊ニ夜間ニハ夥シク現ハレ日中ニハ只僅少ニ見ラル、モノニシテ之レハ第二種ヨリモ稍短カクシテ太シ

長サ 〇、一六四 mm 太サ 〇、〇〇八 mm

尾端ハ余リ尖銳ナラス多クハ透明ノ被膜ヲ有ス

第二種ノモノハ長クシテ被膜ヲ有セス尾端ハ尖カル

長サ 〇、二九五 mm 太サ 〇、〇〇七 mm

常ニ母虫ヲ見出スルヲ得ベク而シテ屢陰囊水腫液及ヒ腫脹淋沍腺ニ於テ又ハ常ニ淋沍鬱積ヲナス處ニ見出スルモノナリト云フ

余カ實驗例ハ左ノ如シ

伊良波長錄

年齡 二十五年  
生地 沖繩縣  
職業 海員  
現住 安平港

既往症

父ハ六十二歳母ハ五十一歳共ニ健存ス八人ノ同胞アリシカ一兄ハ不明ノ疾病ニテ死亡シ一妹ハ天然痘ニテ没シ五人

ハ目下健全ナリ配偶亦健康、子ナシ。

生來虛弱ニシテ四五歳ノキ熱病ニ罹リ十五歳ノキヨリ二十歳ノ頃迄時々胃病ニ侵カサレタリ、十七歳ヨリ十九歳ノ

間ニ於テ三回痲氣ノ爲メ腰痛ヲ起シタルコアルモ大低二三日ニシテ治セリ

明治三十三年五月二十一歳ニシテ渡臺ス

同年末頃瀛罐内へ掃除ニ這入り胸内苦痛ヲ起シタルコアリシモ一日ノ休養ニヨリ治セリ、三十四年末頃淋疾ニ罹リ

二十日ニシテ治ス、三十六年五月妹ノ窒扶斯ニテ斗六醫院ニ入院セシヲ以テ付添看護シ其經過中ニ熱發シ十日間モ

休養シタリ、(「マラリヤ」ノ診斷ナリト云フ)六月一日安平ニ歸リ「デング」熱ニ侵カサレ十日ニシテ治癒ス

本病ハ六月三日頃三日斗徹夜勤務セル后保養セシニ其夜ノ尿ニ血塊ヲ混セルヲ發見シタルヲ起始トス其后時々血尿ヲ排泄セリ而シテ次第ニ貧血蒼白色トナリタレモ身体ニハ異狀ノ感ナク只尿利時ニ時トシテ血塊ノ爲メ一時放尿ノ停止セントスルカ如キ感アルモ直ニ放出スルヲ得テ毫モ介意スルコトナシ此病症ハ一ヶ月余ニシテ去レリ

此經過中或ル土人此ノ如キ放尿ヲ見テ一種ノ藥物ヲ投與セシヲ以テ服用シ治癒ニ赴キタリト云フ

三十七年五月頃飲酒后再ヒ血尿ヲ漏ラシ其后暴風雨ニ逢ヒ身体ヲ濡濕セシ爲メ一層増惡セリ時々血尿若クハ乳糜様尿ヲ排泄シ今日ニ至ルト云フ

現 症 (九月三日)

体格中等ナレモ矮小ナリ營養稍不良、皮膚色貧血ニシテ著シク蒼白ナリ、心音僅ニ不清ナルノ他胸腹臟器ニ他覺的異狀ヲ認メス

尿ハ汚穢乳白色乃至暗紅褐色ヲ呈シ強ク溷濁シテ不透明ナリ其中ニ血液凝塊(暗紅色凝血塊ナルアリ或ハ水泡狀膠樣塊ナルアリ)ヲ混ス其混在スルノ多少ハ時ニヨリテ不同アリ、反應ハ弱亞兒加里性ニシテ比重ハ一〇一三一〇二〇ノ間ニアリ、二十四時間内ニ排泄スル尿量ハ八五〇、〇瓦―二八五〇、〇瓦ナリ、蛋白質ハ常ニ存在シ大凡〇、五%トス、脂肪ノ量ハ變動アリテ一定セス、沈渣ハ赤血球其主部ヲ占メ少許ノ白血球、脂肪少滴、二三ノ上皮細胞ニシテ時トシテ「フィラリヤ」幼虫ヲ檢出セリ此幼虫ハ數回ノ検査ヲ反復シテ漸ク發見シタルモノナリトス、排泄后稍々時間ヲ經過セル尿ニハ亦多クノ「トリッペルホスファート」結晶ヲ見タリ、尿圓柱ハ欠ケリ。

血液検査、指尖ヲ穿刺シ湧出セル血液ハ稍淡色ニシテ其凝固性ハ健血ヨリモ僅ニ遲シ血色素ノ量ハ四十%内外、赤血球約三百五十万個、白血球七千個ニシテ赤血球五百個ニ對シ白血球一個ノ比例ナリ

晝間採取セル血液ニハ幼虫ヲ發見シ難シト雖モ夜間ニ得タル標本中ニハ每常多數ノ「フィラリヤ」幼虫ヲ認メ甚タ活潑ナル蛇行狀若クハ挑撥狀(殆モ蚯蚓ノハテル如キ)運動ヲ營ミ約一週間ハ生活ヲ保續シタリ(「ワゼリン」封鎖標本) 幼虫ノ頭端ハ鈍圓ニシテ尾端ハ銳尖ナリ被膜ヲ有セス

長サ ○、二七mm 太サ ○、〇〇七mm

ノ大サアリ故ニ該幼虫ハ「フィラリヤノクツルナ」ナルコト明カナリ而シテ其形態並ニ大サハ谷口氏第二種ノモノニ匹適スレモ只之レハ乳糜尿管中ニ發見シ彼ハ局處ノ淋沍性疾患ニ見出サル、モノナリト云フノ差異アリトス

血液乾燥標本ニ就テハ特ニ記スヘキノ變化ナシ則チ赤血球ノ形狀普通ニシテ白血球ハ多クハ中性多核細胞ナリ其他少數ノ淋沍細胞ヲ見タルモ「エオジン」嗜好細胞ハ發見セサリキ

療法トシテハ殺虫ノ目的ニ「チモール」四、〇ヲ一日三回膠囊ニ容レ與ヘタルコト一週餘ニ至レルモ尙血中ニ其以前ト同數ノ幼虫ヲ認メ毫モ効果ナカリキ、止血ノ爲メニハ麥角越起斯ヲ用ヒテ尿管ヲ治スルヲ得タリ、爾后ハ「クレオソート」丸並ニ鉄劑ヲ投シ次第ニ快復ニ赴キタリ。(完)

前號 正誤

所 在	誤	正
第一〇頁 十行目	腹管	腸管
同 十六行目	其檢	其揆
第一二頁 十一行目	性質ヲ看テ	性質ニ看テ
同 十三行目	氷分子	氷分子
第一三頁 二行目	Urystall—	Krystall—
同 三行目	粘液	糖液
第一三頁 十四行目	石炭	石灰
第一四頁 三行目	通常トス	適當トス
第一五頁 八行目	胞核ハ毫モ	胞体ハ毫モ
第一七頁 五行末端	故ニ卵内ニ留マル所ノ一個ナリ	故ニ卵内ニ留マル所ノ一個
第一九頁 十四行目	卵核質ハ母核ノ半量ト成ルナリ	卵核質ハ母核ノ半量ナリ
	再化シタル表皮細胞	角化シタル表皮細胞

正